

原発〇にむかって

2011年12月22日 No.6

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel: 03-5978-2741 fax: 03-5978-2865 mail: sien@tokyominiren.gr.jp

なくせ原発・渋谷デモに参加

一代々木病院 昼休みデモに参加

12月13日の昼に「なくせ原発渋谷共同センター」(代表 代々木病院井上院長)による『なくせ原発・渋谷デモ』が150人の参加で行われました。代々木病院からは職員・共同組織10人が参加。デモコースは代々木からあかつき印刷まで。昼休みの商店街はサラリーマンも多くいて、かなり注目されていました。激励で手をふる人や通行人が飛び込みでデモに加わる場面も。共同センターでは、12月26日に渋谷区内の3つの公園で放射線量を測定することを計画しています。



東日本大震災で東海第二原発も、あわや原発震災

千葉民医連の「東海原発現地視察」に同行する機会がありました。「茨城県原発を考える会」の中村敏夫さんの講義より、東海第二原発の半径30Km圏は100万人もの人口を抱えているため、避難計画の策定ができない現状にあること、東日本大震災では福島第一原発と同様に、地震直後に外部の主電源と予備電源を喪失し、引き続き津波により、非常用発電機の3台のうちの1台と非常用炉心冷却システム2系統のうち1系統を失ったため、あわや原発震災の危機が続き、マスコミが「綱渡りの3日半」と報道するまで詳細が隠ぺいされていたことなどを学びました。東海村は多くの原子力関連施設があり、「東海展示館アトムワールド」を見学した際には、ホールボディーカウンタの検査を受けに福島県からバス3台で来た中学生ぐらいの人たちがいて、現地を視察することでわかることがあると感じました。

(東京民医連事務局 齋藤 裕幸)



子への放射能被害 不安なお母さんたちと懇談

町田市「市民と医療関係者による健康相談会」

12月4日(日)、町田市で「子どもと未来をつなぐ会」の地域のお母さんたちと16人の医療関係者(東京民医連からは児島徹医師、谷川智行医師など7人)との福島第一原発事故による放射線被害についての懇談が行われました。集会には小森陽一(東京大学大学院教授)、藤井石根(さよなら原発町田の会共同代表)も参加しました。集会の冒頭、長瀬(全日本民医連事務局長)が民医連の原発事故に対する基本方針を報告しました。続いて、お母さんたちの「子どもたちの鼻出血や下痢について、放射能汚染の影響が心配」などの質問に、「まったく影響がないとは言いきれないので、情報を集めましょう」「お母さんの心配が、子どもに悪い影響とならないように注意しましょう」「鼻出血は誰にでも起こるので、個人を診察しただけで、放射能の影響とはわかりません」などの回答や、「子どもの乳歯は将来、ストロンチウムの測定に役立つかもしれないので捨てないように」などのアドバイスを行いました。八田純人(農産食品分析センター所長)からは、放射性物質汚染のスクリーニング検査や、導入を準備しているゲルマニウム半導体検出器が紹介されました。集会終了後、子どもたちに甲状腺の触診検査を実施してほしい希望に「放射線の影響でガンができるのは数年先で、所見を認める確率はほとんどゼロですよ」と説明して、検査を実施しました。

2012/2/4 (土) 2:30-5:30

「原発〇にむかって」学習会

TKP 東京駅日本橋
ビジネスセンター

テーマと講師: 「低線量被ばくの被害」小西恭司(全日本民医連/緊急被曝事故対策本部長)・「福島農業被害」(福島県農林連)